

赤十字 NOW

千葉 | April 2015 Vol.30

発行所 / 日本赤十字社千葉県支部 〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7 TEL 043-241-7531 FAX 043-248-6812

人間のいのちと健康、尊厳を守るための活動を、あなたとともに。
5月・6月は赤十字運動月間です

日本赤十字社は、5月を「赤十字運動月間」として、広く国民の皆さまに赤十字思想や活動の普及を行うとともに、活動資金の募集を行っています。これは、5月8日が赤十字の創設者アンリー・デュナンの生誕日(世界赤十字デー)であり、5月1日が日本赤十字社の創立記念日であることにちなんだものです。

なお、千葉県支部では、5月・6月を併せて「赤十字運動月間」としています。

CONTENTS April.2015 vol.30

- | | | | | |
|---|-------------------------------|-------------------------------------|----------------------|---|
| 2 県民の皆さまに、
安心を届けるために
平成27年度事業計画
・災害救護体制の充実・強化
(千葉県支部の救護体制について) | 3 赤十字運動月間
・平成27年度予算 | 4 防災ボランティア募集
赤十字防災啓発プログラム | 5 赤十字7原則制定50年 | 6 イベント実施報告
・千葉信用金庫 寄付受領
・献血女子会クッキング
・成田赤十字看護学校
閉校記念式典・感謝の会 |
|---|-------------------------------|-------------------------------------|----------------------|---|

県民のみなさまに、安心を届けるために… 平成27年度も引き続き、 災害救護体制の充実・強化を図ります!

日本赤十字社千葉県支部では、近い将来、発生が予測される首都直下地震や千葉県東方沖地震、東南海・南海地震などの大規模広域災害に備えて、災害救護体制の充実・強化を図っています。

平成27年度も引き続き、赤十字奉仕団や防災ボランティアと連携して、自助・共助の普及・促進に努めてまいります。



行政や防災機関
などとともに、
訓練を実施して
います。



千葉県支部の救護体制

▽救護班

千葉県支部では、7名(医師1、看護師長1、看護師2、主事2、薬剤師1)からなる救護班を成田赤十字病院に12個班、千葉県赤十字血液センターに2個班常備し、災害発生時には、直ちに被災地へ派遣する体制を整えています。

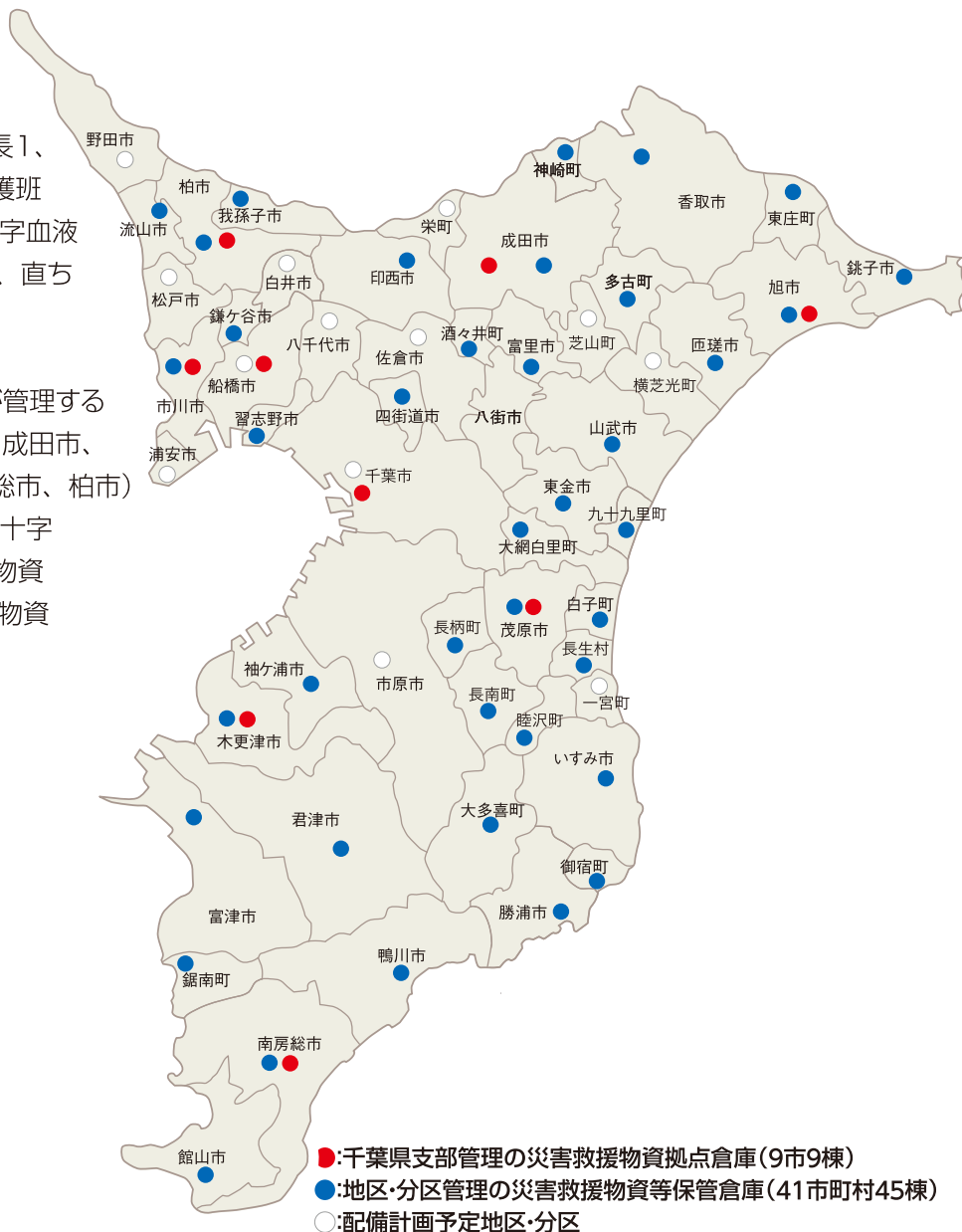
▽救援物資の配備

県内9カ所に日本赤十字社千葉県支部が管理する災害救援物資備蓄倉庫(千葉市、船橋市、成田市、市川市、木更津市、茂原市、旭市、南房総市、柏市)を整備するとともに、県内市町村の日本赤十字社窓口(地区・分区)が管理する災害救援物資等保管倉庫(41市町村45棟)による救援物資の備蓄体制を確保しています。

□災害救援物資の配備状況

毛 布	29,640枚
日用品セット	3,290組
ガーゼセット	5,410枚
バスタオル	3,340枚
敷 布	4,870枚
収 納 袋	900枚
緊急セット	1,494組
安眠セット	965組

(平成26年12月現在)



人間のいのちと健康、 尊厳を守る活動を、あなたとともに

日本赤十字社が行うさまざまな事業・活動は、「人道」という赤十字の理念に共感した皆さまに、財政面でも支えていただいております。

平成27年度も、「人道」の実現に向け、職員・ボランティアが一丸となって赤十字活動の推進に努めて参りますので、皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



平成27年度予算

収入	ご協力をお願いする金額	630,000千円
	その他雑収入(補装具製作収入ほか)	133,359千円
	収入合計:	763,359千円

支出



★「赤十字防災ボランティア」を募集しています!

災害時には、多くの一般市民や各種団体等がボランティア活動に参加します。赤十字では、災害時に備え、日頃から訓練や研修を行い、有事の際に円滑な救援活動(情報収集、応急手当、炊き出し、安否調査、救援物資の搬送・配分など)が展開できるようボランティアの登録・養成を行っております。

【登録方法】

赤十字防災ボランティア一般説明会にご参加いただき、活動内容の説明と応急手当等の簡単な実技体験をしていただき、趣旨にご賛同いただけただけの方に個人登録をいただいております。また、登録をいただいた方はご自身の居住されているブロックの所属となり、年間を通じた活動を行っていただけます。

この活動は強制ではありませんので、ご自身の都合の合わせで参加いただけます。

*登録後、ご自身の居住されている下記のブロックに所属となります。

第1ブロック	中央	千葉市、習志野市、八千代市、市原市
第2ブロック	西部	市川市、船橋市、松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市、浦安市
第3ブロック	印旛	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町
第4ブロック	東部	銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町、東庄町
第5ブロック	南部	東金市、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町
第6ブロック	東南	茂原市、いすみ市、一宮町、睦沢町、長生町、白子町、長柄町、長南町、大多喜町、御宿町
第7ブロック	南部	館山市、木更津市、勝浦市、鴨川市、君津市、富津市、袖ヶ浦市、南房総市、鋸南町
その他	県外	転居等により、千葉県に居住されていない方

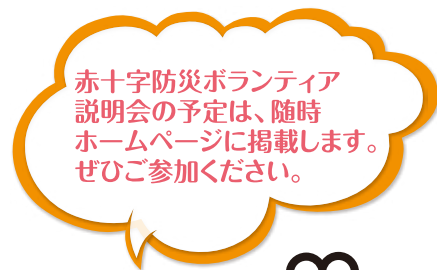
【主な活動】

ブロックごとに、平時から訓練や研修を企画し、災害救護活動におけるノウハウを習得し、災害が発生した際には、日本赤十字社の行う活動(情報収集、応急手当、炊き出し、安否調査、救援物資の輸送・配分、避難所での世話等)に参加します。

また有事の際は、社会福祉協議会の設置する災害ボランティアセンターでの活動に共同、協力し災害ボランティアセンターの運営補助等を行っていきます。



研修会の様子(フットケア体験)



説明会の様子(テント設営訓練)



★赤十字防災啓発プログラムがスタートします!

東日本大震災以降、地域の防災意識や応急手当などへの関心が一層高まっています。日本赤十字社千葉県支部では、「赤十字防災・減災セミナー」を中心に赤十字のノウハウを活用した「赤十字防災啓発プログラム」の開催を推進することで、個人と地域の防災・減災力(自助・共助)の向上に役立てていきたいと考えております。

「赤十字防災啓発プログラム」は、身近に起こりうる災害を知っていただき、災害に備える防災知識を深めるための講座「赤十字防災・減災セミナー」と、災害発生時や避難所で役立つ技術を試行する「体験プログラム」で構成されます。

防災・減災セミナー
災害の基礎知識などを学ぶ



体験プログラム
非常炊き出し、救急法などを体験する

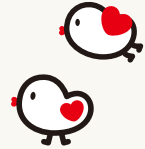
地域奉仕団の一日赤十字やつといなどのイベントで随時実施していく予定です。一般の方もご参加いただけますので、お見かけの際はぜひご参加ください。

【お問合せ先】 日本赤十字社千葉県支部 救護福祉課 救護係 Tel043-241-7531(代表)



[赤十字7原則 制定50年]

知っていますか?赤十字の7原則



1965年にウィーンで開催された第20回赤十字国際会議で「赤十字の基本原則宣言」が採決されました。赤十字基本原則は、赤十字の長い活動の中から生まれ、形作られたものです。「人間の生命は尊重されなければならないし、苦しんでいる者は、敵味方の別なく救われなければならない」という「人道」こそが赤十字の基本で、他の原則は「人道」の原則を実現するために必要となるものです。

国境、宗教、民族を越えて人間の生命と健康を守り、苦痛の予防と軽減に努める、それが赤十字の営みです。わたしたちは、世界の赤十字が共有する7つの基本原則に従って行動します。

人道

Humanity

人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます

赤十字は、戦場で傷ついた人を敵・味方で区別することなく助けたいという思いから生まれました。あらゆる状況下においても、人間の身体的・精神的な苦しみを予防し、和らげることによって、「生命と健康を守り、人間としての尊厳を確保する」＝「人道」の活動を展開します。赤十字は、すべての国民間の相互理解、友情、協力、および堅固な平和を助長します。



公平

Impartiality

いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します

赤十字は、国籍・人種・宗教・思想などで差別せず、苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努めます。そして、その場合、もっとも救いの手を求めている人から先に対処します。



中立

Neutrality

すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません

赤十字は、公平な活動を行うために、争いのときにはどちらの味方もせず、いかなる場合にも政治的、人種的、宗教的または思想的性格の争いには参加しません。



独立

Independence

国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます

中立であるためには、赤十字は独立していなければなりません。各国の赤十字社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律に従いますが、常に赤十字の諸原則にしたがって行動し、その自主性を保ちます。



奉仕

Voluntary Service

利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します

赤十字は、自らの意思によって活動し、その活動に対して金銭的な利益を求めません。



単一

Unity

国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます

どんな国にも、赤十字はひとつしかありません。赤十字はすべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって、公平に人道的活動を展開します。



世界性

Universality

世界に広がるネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します

赤十字は世界的機構です。その中において、すべての赤十字社は同等の権利を持ち、互いに助け合う世界的なネットワークを持っています。



12/2 千葉信用金庫創立 90 周年記念 目録贈呈式

千葉信用金庫様（伊谷 啓 理事長）が創立90周年を迎えた記念事業における社会貢献活動の一環として、千葉県赤十字会館にて目録贈呈式を行いました。

これは、赤十字の「人間のいのちと健康、尊厳を守る」活動にご賛同いただき、広く社会に役立ててもらいたいという同信用金庫様の思いから実現したものです。

いただいたご寄付は、救護活動や救急法等の講習の資材整備など、赤十字が行う人道的な活動に活用させていただきます。



（左：伊谷 啓 理事長、右：村石 保男 事務局長）

1/28 献血女子会クッキングを開催しました



（焼売作りに取り組む参加者の皆さん）

日本赤十字社千葉県支部、成田赤十字病院、千葉県赤十字血液センターは、女性会員だけで構成される千葉ゆうきのライオンズクラブ（中村 洋子 会長）と協働で女性限定の献血につながる料理教室を開催しました。応募のあった一般女性 47 人が、成田赤十字病院の管理栄養士が選んだ献血に効果的な千葉県産の食材を使って、ホテルのシェフの指導のもと、和食・中華4品（落花生豆腐・焼売・ひじきとあさりの炊き込みごはん・菜の花のお吸い物）を作りました。焼売作り際には、地元球団 千葉ロッテマリーンズの西野勇士投手がサプライズ登場！参加者たちと一緒に焼売作りに挑戦し、会場を沸かせました。

また、イベント後半は、参加者全員で完成した料理を試食する女子会タイム。西野投手にも再び登場いただき、おいしい軽食を食べながら、食や健康管理に関するトークショーを楽しみました。参加者からは、「食を見直すきっかけになりました」などの声が聞かれました。

3/12 成田赤十字看護専門学校 37 年の歴史に幕

平成 26 年度末で閉校となった成田赤十字看護専門学校で、閉校記念式典および感謝の会が遂行され、卒業生や関係者ら約 270 人が出席しました。

北総地域の基幹病院である成田赤十字病院に併設されていた同校では、保健医療はもちろん、赤十字の看護専門学校として、緊急時・災害時の看護にも対応できる知識や技術の習得などに力を入れてきました。「人道」の精神に基づいて、あらゆる状況下においても人間の苦痛を予防・軽減し、生命と健康を守るために、広く社会に貢献できる豊かな人間性を持った看護師を育成してきました。

第一部の式典では、日本赤十字社の近衛忠輝社長をはじめ、来賓の方々にご挨拶をいただき、講師の方々や実習先施設などに感謝状が贈呈されました。

最後の卒業生となった 35 回生 30 人によるキャンドルサービスからはじまった第2部のつどいでは、和やかな雰囲気の中、卒業生による楽器演奏や 37 年の歴史を振り返るスライドショーの上映などが催されました。

昭和 53 年の開校から 1,104 人の卒業生を送り出した成田赤十字看護専門学校は、惜しまれながら、37 年間の歴史に幕を閉じました。



（近衛忠輝社長挨拶）



（最後の卒業生となった3年生30人）